

令和七年 第一回

七宝会公演

能 「田村」 辰巳大二郎

狂言 「清水」 善竹 隆平

能 「雲林院」 山内 崇生

春宵一刻值千金
花に清香月に影

月やあらぬ春や
昔の春ならぬ

我が身一つは
もとの身にして

最も古典にして、
最もアウテンキヤルな芸能
能美をみなさまに

七宝会
宝生流

◆ 3月7日(金) 17時開演(16時半開場)

◆ 枚方市総合文化芸術センター本館

関西医大小ホール



令和七年 第二回 七宝会公演



七宝会

【番組】

能 「田村」

少年 辰巳大二郎
坂上田村麿

旅 僧 喜多 雅人

大鼓 山本 哲也

笛 赤井 要佑

清水 門前の翁 上吉川 徹

小鼓 成田 奏

狂言 「清水」

太郎冠者 善竹 隆平

主 善竹 隆司 後見 小西 玲央

能 「雲林院」

老人 山内 崇生
在原業平の霊

大鼓 森山 泰幸 太鼓 中田 一葉

芦屋の公光 福王 知登

小鼓 久田舜一郎 笛 斎藤 敦

従者 広谷 和夫

従者 中村 宜成

里人 善竹 隆司

【解説】

◇ 能 「田村」 たむら
春のある日、清水寺を訪れた東国の僧は箒を持った少年と出会う。清水寺の来歴を尋ねる僧に、少年は、坂上田村丸が建立した謂れを語る。また近隣の名所を挙げるうちに日は暮れ、少年は折からの景色を讃えながら舞いを添え、田村丸ゆかりの田村堂という建物に入っていく。残された僧の前に清水寺門前の者が現れ、清水寺の縁起を語り、少年は田村丸の化身だろうと述べ、回向を勧める。夜半、僧が法華経を誦読していると、武者姿の田村丸の霊が現れる。田村丸はかつて、鈴鹿山の朝敵を討ち、国土を安全にせよ、との宣旨を受けて、軍勢を率いて観音に参り、願をかけたことを語る。その後、見事に賊を討ち果たした有様を見せて、これも観音の仏力によるものだとして、物語を終える。

◇ 狂言 「清水」 しみず
主人は、お茶の会で使う水を野中の清水へ汲みに行くよう、太郎冠者に命じる。使いにいきたくない太郎冠者は、「清水に鬼が出た」と嘘をつき帰ってくる。主人は太郎冠者が置いてきた秘蔵の水桶を惜しがり、自ら清水に探しに向かう。困った太郎冠者は先回りをして、鬼の面をかぶって主人を脅す。あわてて逃げて帰った主人は、不思議なことが多いため、今一度探しに行くと言い出す。しかたなく太郎冠者は、もう一度先回りをして脅すのだが…。

◇ 能 「雲林院」 うんりんいん
伊勢物語の愛読者、摂津国芦屋の公光が、業平と愛人の二条の后が紫野の雲林院に行んでいるの夢を見る。昔ゆかしき雲林院を訪ね、桜の花盛りなので一枝折ると、老人が現れてこれを咎める。老人は、公光と花を折ることの是非を古歌で争う。老人は「木陰で寝て待ちなさい。夢で語りましょう。」と姿を消す。公光のその夜の夢に業平の霊が在りし日の姿で現れて恋路を明かし、月明かりの桜の下で舞の袖を返す。

◆ 令和七年 七宝会年間会員について

- 年間4公演のうち、普及公演を除く3公演の指定席代金15,000円を13,000円でご提供いたします。
- 発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。
- 年度途中からでも会員にお申し込みいただけます。

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115



枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大 小ホール
大阪府枚方市新町2-1-60
京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分

◆ スマホ解説
「衆我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマホをお使いいただき、ご自身のイヤホンで解説をお聴きいただけるサービス提供が始まりました。ご希望の方はスマホとイヤホンをご持参のうえ、ご体験くださいませ。

- ◆ 日時 令和七年 三月七日(金) 十七時 開演(十六時半 開場)
- ◆ 会場 枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大 小ホール
- ◆ 料金 指定席 5,000円 自由席 3,500円 学生 2,000円